

第 13 回甲賀市総合計画策定審議会 会議録

開催日時 平成29年5月9日（火）18:00から20:00まで
開催場所 甲賀市役所 水口庁舎3階 会議室301
出席委員 新川会長、小坂副会長、赤堀委員、大原委員、谷井委員、谷口委員、田中伸委員、田中直委員、中森委員、林委員、丸山委員、薮下委員
アドバイザー 滋賀県総合政策部市町振興課 西川課長補佐
事務局 野尻総合政策部次長、出嶋室長、竜王課長補佐、北林係長、清水主査、桑山主事、谷口主事、前田主事

会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告事項
(1) 第2次甲賀市総合計画に係るパブリック・コメントの結果について
4. 今後の予定
5. その他
6. 閉会

会議資料

資料1. 第2次甲賀市総合計画（案）のための甲賀市の未来をみんなで考えるおしゃべりカフェでの意見（参考資料）

資料2. 第2次甲賀市総合計画（案）パブリック・コメントの結果（意見の概要と市の考え方）について

資料3. 第2次甲賀市総合計画（案）

会議内容

1. 開会

新川会長：皆様のご尽力により、総合計画審議会も第13回まで到達することができた。パブリック・コメント等を終え、今回、それに基づく修正案が資料として提示されている。この総合計画（案）が、私たちがこれまで議論を重ねてきたものである。基本構想における未来像は「あい甲賀 いつもの暮らしに『しあわせ』を感じるまち」という大きなテーマを掲げている。人口フレームについては、10万都市という将来の目標を見据えながら、当面は人口減少に歯止めを掛けることとしている。未来像の実現に向けた都市構造としては、甲賀という多様な地域全体が共に生きていく枠組みを創るため、地域をつなぐ、暮らしをつなぐ、未来につなぐという観点でネットワーク型の地域づくりを掲げた。基本計画においては、暮らしや学び、子育てなどを具体的な施策に落とし込み、より率先して進める施策はチャレンジプロジェクトとして掲げた。喫緊の課題を大きく掲げ、子育て・教育、地域経済、福祉・介護という3つのテーマで10万都市に近づけていくために10のプロジェクトを進めることとする。今後は計画をどのように実現していくかが重要である。

事務局：審議会委員の委嘱について説明。

3. 報告事項

(1) 第2次甲賀市総合計画に係るパブリック・コメントの結果について

事務局：資料1、2に基づき説明。

事務局：パブリック・コメントの意見を踏まえ、文言を修正している。この内容で議会に上程することとしてよろしいか。

— 委員一同了承 —

4. 今後の予定

事務局：今後は実施計画の策定に入る。皆様に策定いただいた基本計画の方向性に沿って、具体的な事業についての議論を開始している。夏期頃には総合計画審議会に原案を提示するので、ご意見をいただきたい。最終的には9月に実施計画を固めたい。次年度以降も総合計画に基づき、効率的かつ効果的な事業執行がなされているかのチェックを委員の皆様をお願いしたい。頻度としては、年2回程度の予定をしている。公開する実施計画の事業数については、絞り込むこととし、100事業程度を考えている。

— 委員一同了承 —

5. その他

事務局：「その他」として、何かご意見があればご発言をお願いします。

— 特に意見なし —

- 事務局：議会での審議結果によっては緊急に開催することもありえる。議決がいただければ冊子は8月末にはご用意させていただく。冊子はイラストや写真等も含めて、5ミリ程度の少し厚めのカラー版冊子となる。
- 新川会長：計画策定にあたって、各委員からご感想をいただきたい。
- 大原委員：4月のパブリック・コメントで数多くのご意見をいただくことができてよかった。この審議会を通じて、いつもと違った目で甲賀市を見つめることができ、大変嬉しく思っている。
- 赤堀委員：正直に申し上げると、基本計画ではイメージが湧きにくい部分があった。実施計画の中身が非常に楽しみである。
- 田中直委員：基本理念、大きな方向性では本当に素晴らしい内容になっている。この方向性を踏まえた実施計画について議論する機会をこの審議会だけではなく、おしゃべりカフェのような形で定期的開催されるとよい。
- 谷井委員：甲賀市にとって大事な核となる部分の話し合いに参加させていただいたことを今更ながらに実感し、そして大変感謝している。皆様のご意見を聞きながら自分も成長でき、勉強させていただくことができた。
- 谷口委員：良いものができた。ぜひこれを市民の皆様や市外の方にも周知し、総合計画が絵に描いた餅にならないよう進めていただきたい。
- 中森委員：本当に立派なものができた。基本計画は行政だけで進めるのではなく、市民が支えながら進めていくという視点で指導していただきたい。
- 林委員：第1次総合計画にも関わらせていただいたが、これまでは計画策定だけで終わってしまい、市民の皆様の中には届かなかった。しかし、今回は策定を通じて、より身近に感じられる計画になった。今後も期待している。これからの実施計画策定が最も大事なところになるので、充実したものになるよう進めてほしい。私たち市民も頑張らなければならない。
- 田中伸委員：金融機関という立場で参加をさせていただいた。非常にきめ細かな計画となったので、今後は実施計画にしっかりと落とし込んでいただきたい。市内の全金融機関で水口金融協議会を組織している。実施計画においても金融機関が具体的に関わっていくことになる。水口金融協議会でも総合計画に基づき、全員一丸となって地域の活性化に寄与していきたい。
- 丸山委員：おしゃべりカフェでの意見が響いている。特に「平均的な施策は市民にとってピンと来ない」という意見が印象的であった。実施計画で重点事業を絞り込むなかで、新たな緊張感が生まれたと実感している。
- 藪下委員：これまでのおしゃべりカフェ、パブリック・コメントにあるような意

見は地元でも耳にしており、市民の声として実感がある。自治振興会でも、まちづくり基本条例の18条に則って、議論を展開していきたい。

小坂副会長：パブリック・コメントの意見がこれだけ数多くあるということは、市民の皆様がそれだけ興味と関心を持っているということであり、これこそが大きな希望につながるのではないかと感じる。基本構想や基本計画を見ると、大きなレストランのメニューを広げているように感じる。これから優先的にどれに手をつけていくかが大切である。そして、このような内容を市民、議会などみんなで共有することが最も重要である。

新川会長：今回の総合計画は大きな時代の変わり目を踏まえて、将来をどう展望していくか、どういう理想像を追求していけばいいかと非常に難しい計画だった。人口減少を踏まえて、甲賀をどのように考えていけばよいかを委員の皆様と一緒に議論し、市民の皆様のたくさんのご参加を得て、内外の様々な知恵を集めてここまで議論ができたため、非常に良い成果を出すことができた。総合計画である以上、総花的で、課題を総ざらいしているところもある。しかし、今回の計画を通じて、ようやく甲賀市という一つのまとまりとして見えてきたという印象も受けている。今回の総合計画では甲賀という地域を一つとしてイメージしながらも、その中にある多様な地域、多様な暮らし、多様な文化・歴史、多様な資源、多様な人々を前提にまちづくりを進めていくという計画になった。将来の理想に向けて近づくための第一歩を示すことができたのではないかと感じる。甲賀市には素晴らしい資源や宝物が数多くある。それらをもっと伸ばして、もっと素晴らしい財産、資源にしていくという視点でこれからのまちづくりを市民とともに進めていくことが、この計画の役割である。ただ単に行政が総合計画を進めるのではなく、地域の事業者や市民の皆様、あるいは自治振興会や地域の各種団体の皆様、NPO、NGO、ボランティアの皆様も含めて、多様な力を合わすことができれば、未来像を実現できる。市民の皆様がこの計画をみんなの計画として、自分たちの計画だと思っていただけるよう、さらなる働きかけをお願いしたい。実施計画の策定にあたっては、引き続き委員の皆様のご意見をいただくことになる。よろしくお願いいたします。

西川委員：これまで皆様が熱心にご議論された結晶がこの計画である。パブリック・コメントにもあったように、この計画が市民の皆様と共有され、オール甲賀の取組がさらに進むよう期待している。

6. 閉会

小坂副会長：審議会の冒頭30分で新庁舎を見学させていただいた。印象的だったのは、新庁舎には仕切りがないことである。横串を刺していけるような構造となっているので、具体的な事業の実施にあたっては、庁舎全

体の取組になっていく可能性を感じた。新緑がきれいな時期であり、何もかもがこれから始まるという時期である。皆様と一緒に力を合わせ、よりよい計画を策定、実行していきたい。

事務局：平成27年6月から皆様には総合戦略の策定に1年間取り組んでいただいた。これをベースとして、平成28年からは総合計画の基本構想、基本計画の策定のために、2カ月に1回と頻繁に審議会を開催していただいた。改めて感謝申し上げます。以上で第13回の審議会を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。

以上